

第169回 福岡日伊協会 映画鑑賞会のご案内

福岡日伊協会では、第169回映画鑑賞会を下記にて開催いたしますのでご案内いたします。

記

- 日 時：2016年1月25日（月）19:00～21:00
 - 会 場：あじびホール（福岡アジア美術館8F） TEL092-263-1100
（福岡市博多区下川端町3-1 リバレイセンタービル）
 - 入場料：無 料 先着120名（直接会場へお越しください）
 - 問合せ：福岡日伊協会 担当 井口
TEL 092-476-2153（西日本シティ銀行内）
- ※20時以降 美術館は閉館につき入館できませんのでご注意下さい。
※館内での飲食は厳禁ですのでご注意下さい。

<作品紹介>

ヴィットリオ・デ・シーカ監督 『ウンベルトD』（Umberto D） （1951年 87分）

監 督	／ ヴィットリオ・デ・シーカ	出 演	／ カルロ・パティステイ
脚 本	／ チェーザレ・ザヴァッティニ		／ マリア・ピア・カジリオ
音 楽	／ アレッサンドロ・チコニーニ		／ リナ・ジェナリ
			愛犬フライク

2016年、最初の映画作品は自転車泥棒やひまわりなどのヴィットリオ・デ・シーカ監督が自作の中で「一番好きだ」と答えたウンベルトDです。これはウンベルトが彼の父親の名前で、Dはデ・シーカを暗示しているように、デ・シーカが彼の父親に捧げた映画です。しかし、この主人公は銀行の下級行員だった父親をモデルにしたものではありません。原作の小説はシュールリアリズムの作家として知られるチェーザレ・ザヴァッティニで、脚本も仕上げています。この映画の主人公はプロの俳優ではなく本当の大学教授で、下宿の女中さんも素人ですが、主人公の相手役として常に活躍するのは、彼の愛犬フライクです。（このワンちゃんが一番の役者かもしれない）長らく勤めた下級官吏の職をクビになり今年70歳を迎えた孤独な老人は、わずかな恩給の半分がアパート代に消えてしまう暮らしでは生きていけず、死を決意するが…。

新年最初の作品としては、少し重たいかもしれませんが、これから日本が抱える問題を60年以上前にデ・シーカが見つめ、それは60年経った今観てもまったく古さを感じさせない人間の愛と尊厳に溢れています。

（解説：湯越勘一氏）